



# 障害のある若者の雇用に関する 日米企業リーダー育成研修 ウェビナーシリーズ

マサチューセッツ大学ボストン校の地域インクルージョン研究所 (Institute for Community Inclusion) は、在日米商工会議所 (American Chamber of Commerce in Japan) とパートナーシップを組み、合計5回にわたるウェビナーシリーズを実施します。各ウェビナーでは、日米で活躍するビジネスリーダー、教育関係者、そして障害のある若手プロフェッショナルが登壇し、日米両国において障害のある若者の雇用に関する様々な問題点について話し合います。本プロジェクトは在日米大使館の資金援助により、実践知識と教訓の共有の促進を目的に行われます。

(日本時間) 2021年2月19日午前9時～午前10時30分  
(米国東部標準時間) 2021年2月18日午後7時～午後8時30分

**雇用へのアクセス方法とは？日米の障害のある大学生と若手社会人たちがアクセス確保のための経験を共有する。**

パネリストは、障害のある大学生または若手社会人としてこれまで遭遇してきた様々な障壁について語り、その経験が彼ら自身および周囲の人々の生活を形作ってきた様子を共有する。また、パネリストは、このような障壁が存在する理由 (障壁の歴史) について考えを共有し、障壁を克服してきた方法 (前進する方法) について語る。本パネルを通して、障害者雇用の問題点は採用手順の調整のみでは解決できないことを示す。障害のある若者達が雇用を目指し、望む職に就くには、教育や物理的環境を含めた隣り合わせに存在する社会領域にある障壁を取り払わなければならない。

本ウェビナーは合計5回にわたるシリーズ (5月、6月、8月、11月) の第一回目です。

事前登録制・参加費無料

情報保障: 日英同時通訳、日英文字通訳、日本手話、アメリカ手話

お問い合わせ先:

Heike Boeltzig-Brown, PhD  
プロジェクト・ディレクター

田那邊美和  
プロジェクト・コーディネーター  
Miwa.Tanabe@umb.edu

事前登録:

[https://communityinclusion.zoom.us/webinar/register/WN\\_nrOJslsfSF-9yexfXYKZdg](https://communityinclusion.zoom.us/webinar/register/WN_nrOJslsfSF-9yexfXYKZdg)

The project is funded by the U.S. Embassy Tokyo.



Institute for Community Inclusion at UMass Boston



# ウェビナーシリーズ

## 障害のある若者の雇用に関する

### 日米企業リーダー育成研修

マサチューセッツ大学ボストン校の地域インクルージョン研究所 (Institute for Community Inclusion) は、在日米商工会議所 (American Chamber of Commerce in Japan) とパートナーシップを組み、合計5回にわたるウェビナーシリーズを実施します。各ウェビナーでは、日米で活躍するビジネスリーダー、教育関係者、そして障害のある若手プロフェッショナルが登壇し、日米両国において障害のある若者の雇用に関する様々な問題点について話し合います。本プロジェクトは在日米大使館の資金援助により、実践知識と教訓の共有の促進を目的に行われます。

### ウェビナーシリーズ

雇用へのアクセス方法とは？日米の障害のある大学生と若手社会人たちがアクセス確保のための経験を共有する。

日程: 2021年 2月

教育現場から就労へ: どのようにして障害のある学生達が高等教育におけるアクセシビリティを阻む障壁を克服しているか？

日程: 2021年 5月

職場における教育: どのようにして経験に基づく学習が障害のある学生達の雇用への移行準備の助けとなるか？

日程: 2021年 6月

職場におけるインクルージョン: 障害者、企業、そして地域へもたらすメリットとは？

日程: 2021年 8月

今後の障害のある若者の雇用について

日程: 2021年 11月

事前申込制・参加費無料

情報保障: 日英同時通訳、日英文字通訳、日本手話、アメリカ手話

お問い合わせ先:

Heike Boeltzig-Brown, PhD  
プロジェクト・ディレクター

田那邊美和  
プロジェクト・コーディネーター  
Miwa.Tanabe@umb.edu

The project is funded by the U.S. Embassy Tokyo.



Institute for Community Inclusion at UMass Boston



# ウェビナーシリーズ

## 障害のある若者の雇用に関する

### 日米企業リーダー育成研修

マサチューセッツ大学ボストン校の地域インクルージョン研究所 (Institute for Community Inclusion) は、在日米国商工会議所 (American Chamber of Commerce in Japan) とパートナーシップを組み、合計5回にわたるウェビナーシリーズを実施します。各ウェビナーでは、日米で活躍するビジネスリーダー、教育関係者、そして障害のある若手プロフェッショナルが登壇し、日米両国において障害のある若者の雇用に関する様々な問題点について話し合います。本プロジェクトは在日米国大使館の資金援助により、実践知識と教訓の共有の促進を目的に行われます。

## ウェビナーシリーズ

雇用へのアクセス方法とは？日米の障害のある大学生と若手社会人たちがアクセス確保のための経験を共有する。

**日程: 2021年 2月**

パネリストは、障害のある大学生または若手社会人としてこれまで遭遇してきた様々な障壁について語り、その経験が彼ら自身および周囲の人々の生活を形作ってきた様子を共有する。また、パネリストは、このような障壁が存在する理由 (障壁の歴史) について考えを共有し、障壁を克服してきた方法 (前進する方法) について語る。本パネルを通して、障害者雇用の問題点は採用手順の調整のみでは解決できないことを示す。障害のある若者達が雇用を目指し、望む職に就くには、教育や物理的環境を含めた隣り合わせに存在する社会領域にある障壁を取り払わなければならない。

教育現場から就労へ: どのようにして障害のある学生達が高等教育におけるアクセシビリティを阻む障壁を克服しているか？

**日程: 2021年 5月**

本パネルでは、障害のある若者の雇用を実現するための最初の取り組みとして、高等教育への進学を阻む体系的な障壁を除くことに焦点を当てる。パネリストは、入学試験時や教室内における配慮不足だけでなく、自立生活や学業面で目標を達成する際に必要となる住居や交通、その他の地域サービスなどへのアクセスの制限によって障害学生がどのような影響を受けるのかについて意見を交わす。本パネル・ディスカッションでは、日米の高等教育における配慮への取り組み方の相違点を浮き彫りにし、インクルージョン促進のために日米両国の「アクセス・メーカー」がどのようにお互いから学び合うことができるのかを明らかにする。さらに、障害のある若者達の高等教育から雇用への移行を支援する政府の役割についても言及する。

The project is funded by the U.S. Embassy Tokyo.



Institute for Community Inclusion at UMass Boston

## 職場における教育:どのようにして経験に基づく学習が障害のある学生達の雇用への移行準備の助けとなるか?

**日程:2021年 6月**

本パネルでは、インターンシップや経験に基づく学習プログラムが、実践的で専門的な要素に重点を置き、障害のある大学生を雇用に向けて効果的に準備するには何が必要であるかを考察する。パネリストは、障害のある学生が大学入学に際して直面する障壁やインターンシップの概念における(日米間の)文化的な違いについて話し合う。障害のある大学生の声を聞いた後、パネリストは、経験に基づく学習プログラムが多様な学生にとってバリアフリーな環境であることを確実にするために、大学アドミニストレーターや企業が果たすべき役割について討論する。

## 職場におけるインクルージョン:障害者、企業、そして地域へもたらすメリットとは?

**日程:2021年 8月**

本パネルでは、障害者雇用の企業側のメリットを明らかにし、多様でインクルーシブな職場文化を育む方法について考察する。パネリストは、バリアフリーな環境で多様性がありインクルーシブな職場は、障害者に雇用を目指す活力を与えるだけでなく、地域の全ての人々の利益となる有意義で持続的な変化をもたらすということについて議論する。日米両国の企業からの事例を紹介する。また、障害のある日本の若手プロフェッショナルが職場での障壁に関する経験をシェアし、それらの障壁を回避して前進することが日々の活動にどのように影響を及ぼしたかを紹介する。

## 今後の障害のある若者の雇用について

**日程:2021年 11月**

本パネルでは、2014年の国連障害者権利条約(CRPD)の発布や新型コロナウイルスの感染拡大など近年の社会的、政治的、そして法的な展開が、これからの日本及び米国の障害のある若者の雇用をどのように方向付けているかを追求する。パネリストが日米両国の就職市場に影響を及ぼしている歴史的要因について討論した後、助成金の受給者からは、パンデミック中に障害のある若者の雇用を改善するために工夫して導入したプロジェクトと、それにまつわる課題、成功例、学んだ教訓などを紹介する。

事前申込制・参加費無料

情報保障:日英同時通訳、日英文字通訳、日本手話、アメリカ手話

お問い合わせ先:

**Heike Boeltzig-Brown, PhD**  
プロジェクト・ディレクター

**田那邊美和**  
プロジェクト・コーディネーター  
[Miwa.Tanabe@umb.edu](mailto:Miwa.Tanabe@umb.edu)